

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
11	明治27年	春の部	江の村や東風吹きそめし軒の簑	東風	天文
12	明治27年	春の部	鳩啼くや若草むしる女の子	若草	植物
13	明治27年	春の部	露の臺花となりけり小藪道	露の臺	植物
14	明治27年	春の部	梅が香や机の上の萬葉集	梅	植物
15	明治27年	春の部	梅咲いて琴の音すなり西の對	梅	植物
16	明治27年	春の部	やり梅の湯殿に赤き袂かな	梅	植物
17	明治27年	春の部	紅梅や隣りの娘としいくつ	梅	植物
18	明治27年	春の部	梅咲いて狩野の一軸古びたり	梅	植物
19	明治27年	春の部	鶯の畑に晝餉の夫婦かな	鶯	動物
20	明治27年	春の部	春風の屋根に烏賊干す入江かな	春風	天文
21	明治27年	春の部	朝市の跡すれて居る餘寒かな	餘寒	時候
22	明治27年	春の部	渦まくや朧月夜の龍飛崎	朧月	天文
23	明治27年	春の部	傾城の衣くれなゐに春の月	春の月	天文
24	明治27年	春の部	陽炎の畑打男すね黒し	陽炎	天文
25	明治27年	春の部	三助の月代青し花の山	花	植物
26	明治27年	春の部	その昔熊谷次郎花の山	花	植物
27	明治27年	春の部	白馬繫く傾城町の柳かな	柳	植物
28	明治27年	春の部	起きよ / \ 春ゆかんとすぬる胡蝶	行春	時候
29	明治27年	春の部	行春や我故郷へ三百里	行春	時候
30	明治27年	春の部	行春を凌雲閣に眺めけり	行春	時候
31	明治27年	春の部	去程に春も暮れけり鐘の声	暮春	時候
273	明治28年	春の部	陽炎に鋏振上ぐる男かな	陽炎	天文
275	明治28年	春の部	陽炎のそこらに行けど君見えず	陽炎	天文
276	明治28年	春の部	紅梅や几帳ほのかに衣の色	梅	植物
277	明治28年	春の部	淀みけり渦まかれけり春の水	春の水	地理
278	明治28年	春の部	大奥の衣のけはひや朧月	朧月	天文
279	明治28年	春の部	浪もなし朧月夜の外が濱	朧月	天文
280	明治28年	春の部	舟のたり / \ 兩岸の桃花燃えんとす	桃	植物
281	明治28年	春の部	春風や電線吼ゆる東海道	春風	天文
282	明治28年	春の部	菜の花や笠背負ひたる伊勢詣	菜の花	植物
283	明治28年	春の部	馬士唄ふ五十三亭日は長し	日永	時候
284	明治28年	春の部	行春をこちらも向かぬ男かな	行春	時候
285	明治28年	春の部	行春を出羽とあるなり笠の文字	行春	時候
287	明治28年	春の部	薄月の菜の花畑牛帰る	菜の花	植物
288	明治28年	春の部	朧夜のほの白き花や何の花	朧	天文
289	明治28年	春の部	月朧只むさし野の果もなし	朧月	天文
290	明治28年	春の部	朧夜のそれかとばかり水車	朧	天文
291	明治28年	春の部	潺湲と朧をくゞる野川かな	朧	天文
292	明治28年	春の部	花や / \ 恁麼の時これいかむ	花	植物
293	明治28年	春の部	里人よ我もこそ来れ花見んと	花見	人事
294	明治28年	春の部	こと問はむ汝か里の櫻いかにぞや	櫻	植物
295	明治28年	春の部	むさし野の麦二三寸小雨ふる	麦青む	植物
296	明治28年	春の部	すさましや桃花の村を鉄車ゆく	桃	植物
297	明治28年	春の部	菜の花や女首出す汽車の窓	菜の花	植物
298	明治28年	春の部	春雨の畑に何する男ども	春雨	天文
299	明治28年	春の部	一村の屋根の低さよ桃さくら	雑	雑
300	明治28年	春の部	石地蔵それよりつゞく花菜かな	菜の花	植物
301	明治28年	春の部	春風の乞食つゞきぬ江戸の町	春風	天文

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
302	明治28年	春の部	花の山かばんさげたる男かな	花	植物
303	明治28年	春の部	蝶々よ旅の記あらば見まくほし	蝶	動物
304	明治28年	春の部	或人の吃り / \ つ春暮れぬ	暮春	時候
305	明治28年	春の部	塔高しそれより高き雲雀かな	雲雀	動物
306	明治28年	春の部	澁瀬と餘寒の蝦のはねたりな	餘寒	時候
307	明治28年	春の部	からまりつ / \ 大藤の花咲きぬ	藤の花	植物
458	明治29年	春の部	石上に椿散りけり僧拾へり	椿	植物
459	明治29年	春の部	女五六酒賣る家の桃の花	桃	植物
460	明治29年	春の部	去程に李月夜の面白や	李の花	植物
461	明治29年	春の部	山かげの一本櫻咲きにけり	櫻	植物
462	明治29年	春の部	千本のさくら一度に咲きにけり	櫻	植物
463	明治29年	春の部	梅が香や月淡くして水細く	梅	植物
464	明治29年	春の部	村又村霞の中の午の鐘	霞	天文
465	明治29年	春の部	日は西へ雲雀も啼かず山畑	雲雀	動物
466	明治29年	春の部	朧夜の女物云ふ屋形船	朧	天文
467	明治29年	春の部	寺しんかん夜ほの / \ と鶯や	鶯	動物
468	明治29年	春の部	水ちよろ / \ 笥に流す椿かな	椿	植物
469	明治29年	春の部	桃咲いて馬引出す小家かな	桃	植物
470	明治29年	春の部	春三月桃紅李白酒十斗	春	時候
471	明治29年	春の部	雪隠の屋根煤びたり桃の花	桃	植物
473	明治29年	春の部	登らんせ春は楊州第一楼	春	時候
474	明治29年	春の部	舞姫の樓に上りつ梨花の月	梨の花	植物
475	明治29年	春の部	春やこよひ飽まで酒を召上れ	春	時候
476	明治29年	春の部	夕風の墓門の櫻花もなし	櫻	植物
477	明治29年	春の部	續たり紛たり土饅頭を吹く落花	落花	植物
478	明治29年	春の部	春の夜の紅樓女あり名は阿嬌	春夜	時候
479	明治29年	春の部	春の夜や繡したる閨の幕	春夜	時候
480	明治29年	春の部	炉塞いで壁の一軸哀れなる	爐塞	人事
481	明治29年	春の部	杉十丈段々に藤の花咲きぬ	藤の花	植物
482	明治29年	春の部	一面に紅白のつゝじ咲きにけり	躑躅	植物
483	明治29年	春の部	禿山やつゝじの赤きところ / \	躑躅	植物
484	明治29年	春の部	谷間の藤棧花咲きぬ	藤の花	植物
485	明治29年	春の部	藤の花淵に臨めること三尺	藤の花	植物
486	明治29年	春の部	水浅く岩白うして藤の花	藤の花	植物
10611	明治29年	春の部	松青く藤紫に水白し	藤	植物
1013	明治30年	春の部	根芹にして根の短きが口惜しく	芹	植物
1014	明治30年	春の部	梅咲いて米の飯喰ふ山家かな	梅	植物
1015	明治30年	春の部	夢みらく君が行く野の若草を	若草	植物
1016	明治30年	春の部	白魚を紫の上にまゐらせよ	白魚	動物
1017	明治30年	春の部	箱根路をわが越えくれば春の風	春風	天文
1018	明治30年	春の部	霞淡く蝦夷が小島の見ゆるかな	霞	天文
1019	明治30年	春の部	よもすがら我戀すべく春さむし	春寒	時候
1020	明治30年	春の部	春の雪山鳥の尾のさら / \ と	春雪	天文
1022	明治30年	春の部	草木春にして胡女が唄ふ恨かな	春	時候
1024	明治30年	春の部	團子喰へば犬吠ゆるなり花の山	花	植物
1026	明治30年	春の部	この別れ春帆遅き恨かな	春	時候
1027	明治30年	春の部	二三人離宴に春の月を見る	春の月	天文
1028	明治30年	春の部	馬で行け萬里の春を横ぎって	春	時候

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1029	明治30年	春の部	君が船明日桃花灘上を	桃	植物
1030	明治30年	春の部	踏破らむ落花の五十有三亭	落花	植物
1031	明治30年	春の部	炉ふさいで此曉をいざ罷らむ	爐塞	人事
1032	明治30年	春の部	恐る暮に落花の里に入らむことを	落花	植物
1033	明治30年	春の部	酒許せ奥州の春猶さむし	春	時候
1034	明治30年	春の部	堇拵りつ紫さめつ此の別れ	堇	植物
1035	明治30年	春の部	離愁とはつくしの如きものなるか	土筆	植物
1036	明治30年	春の部	春の日の落馬なんども我俳諧	春日	時候
1037	明治30年	春の部	この別已にして月朧ろなり	朧月	天文
1038	明治30年	春の部	わが旅や蒲公英三ツ四ツあれば足る	蒲公英	植物
1040	明治30年	春の部	春の夜をみめよき女二人行く	春夜	時候
1041	明治30年	春の部	花はさくら妻を娶らば陰麗花	櫻	植物
1042	明治30年	春の部	中婦弾じ少婦歌へり花の宴	花	植物
1043	明治30年	春の部	柳十里隋家の宮女恨あり	柳	植物
1044	明治30年	春の部	永き日を貧なる女物思ふ	日永	時候
1045	明治30年	春の部	春殿の蠟燭あかし楊氏の女	春	時候
1046	明治30年	春の部	美なる女木蘭の船春の水	雑	雑
1047	明治30年	春の部	朧夜の女歌へり後庭花	朧	天文
1048	明治30年	春の部	楼に上る邯鄲の女春多恨	春	時候
1049	明治30年	春の部	春酒緑り越女の金釵斜なる	春	時候
1050	明治30年	春の部	曙の御講のかすみ虎夫人	霞	天文
1051	明治30年	春の部	賤の女が春の野に出で戀すなり	春の野	地理
1052	明治30年	春の部	春の夜の神前に巫女居並べる	春夜	時候
1053	明治30年	春の部	長き日を全張る男眠りける	日永	時候
1054	明治30年	春の部	薄月の絹雪洞や春の戀	春	時候
1055	明治30年	春の部	丸太積みあげて陽炎の立つを見る	陽炎	天文
1056	明治30年	春の部	永き日やとところ／＼の土方節	日永	時候
1057	明治30年	春の部	金殿や春の夜毎を鼓うつ	春夜	時候
1058	明治30年	春の部	よもすがら笛の音すなり春の城	春	時候
1059	明治30年	春の部	櫻散る此夕暮の静かさは	落花	植物
1060	明治30年	春の部	大木の櫻散ること徐ろに	落花	植物
1061	明治30年	春の部	車去て都のはづれ暮遅し	遅日	時候
1062	明治30年	春の部	長き日の東海道を二人づれ	日永	時候
1063	明治30年	春の部	大歡樂大千世界櫻かな	櫻	植物
1064	明治30年	春の部	酒足らず櫻に冠をかけて去る	櫻	植物
1065	明治30年	春の部	落椿鉄灯籠に積であり	椿	植物
1066	明治30年	春の部	杯盤や酒醒くさくら散る	落花	植物
1067	明治30年	春の部	菜の花の傍へに清き流かな	菜の花	植物
1068	明治30年	春の部	藥賣る家の椿の赤きかな	椿	植物
1069	明治30年	春の部	日當りやたんぼゝ咲ける二ツ三ツ	蒲公英	植物
1070	明治30年	春の部	切支丹の庭に真紅の花咲きぬ	花	植物
1071	明治30年	春の部	寺の池に年ふる蛙住めりとか	蛙	動物
1072	明治30年	春の部	洛陽の春に居眠る男あり	春	時候
1073	明治30年	春の部	菜の花に小さき橋を二つほど	菜の花	植物
1074	明治30年	春の部	聞説野に三千のつく／＼し	土筆	植物
1075	明治30年	春の部	春の人身細き太刀を佩いてゆく	春	時候
1076	明治30年	春の部	春遠近壁に題す一層の楼	春	時候
1077	明治30年	春の部	幕打たせ花の彼方の謠かな	花	植物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1079	明治30年	春の部	春の月二人并むで眺めつらむ	春の月	天文
1080	明治30年	春の部	菜の花のてふ / \ 猫の子眠て知らず	菜の花	植物
1081	明治30年	春の部	水桶にさしたる藤の花咲きぬ	藤の花	植物
1082	明治30年	春の部	里の子の鞭にするなる藤の花	藤の花	植物
1083	明治30年	春の部	道を失す大澤の藤の花を見る	藤の花	植物
1084	明治30年	春の部	わたかまる藤の花房短くて	藤の花	植物
1085	明治30年	春の部	つゝじ赤く藤紫の陳腐なる	躑躅	植物
1086	明治30年	春の部	雑木原に偶々つゝじあるがよし	躑躅	植物
1087	明治30年	春の部	蒲公英の莖の長さがほうけたり	蒲公英	植物
1088	明治30年	春の部	矮なるは最も赤きつゝじかな	躑躅	植物
1089	明治30年	春の部	水涸れ水車猶存す藤の花	藤の花	植物
1925	明治31年	春の部	東門を犬と連立つ日暖か	暖	時候
1926	明治31年	春の部	犬追へば鶏飛上る桃の枝	桃	植物
1927	明治31年	春の部	二三人梅花書屋に会したる	梅	植物
1928	明治31年	春の部	卓上や主客坐につく梅の花	梅	植物
1929	明治31年	春の部	主と客と漢魏六朝梅の花	梅	植物
1930	明治31年	春の部	家疎らにして梅やうやく多し	梅	植物
1931	明治31年	春の部	獨り樓に上る梅の花月夜	梅	植物
1932	明治31年	春の部	白梅や雲烟龍蛇墨一斗	梅	植物
1933	明治31年	春の部	市に入れば梅の木小さし塀の内	梅	植物
1934	明治31年	春の部	梅の村に仕へずして老いし住む	梅	植物
1935	明治31年	春の部	梅林に物の音をきく社かな	梅	植物
1936	明治31年	春の部	白梅の白きを愛すかほりかな	梅	植物
1937	明治31年	春の部	郡太守賢にして土を愛す梅の花	梅	植物
1938	明治31年	春の部	晴天に昼の月傾きぬいかのぼり	凧	人事
1939	明治31年	春の部	壁に飛ばす一斗の墨や梅の花	梅	植物
1940	明治31年	春の部	姉妹や堇咲く野に睦しき	堇	植物
1941	明治31年	春の部	山陰に日暮るゝ遅し春の駒	春の駒	動物
1942	明治31年	春の部	日の暮るゝ遅き牧場や春の駒	春の駒	動物
1943	明治31年	春の部	誤て古道行けば雉子鳴きぬ	雉子	動物
1944	明治31年	春の部	野路山路鶯とところト\かな	鶯	動物
1945	明治31年	春の部	戀すべく里に出でたり寺の猫	猫の戀	動物
1946	明治31年	春の部	淺ましく猫の恋する声高し	猫の戀	動物
1947	明治31年	春の部	戀合ふやいよゝ近づくと猫の聲	猫の戀	動物
1948	明治31年	春の部	戀中の何れも黒き猫なりし	猫の戀	動物
1949	明治31年	春の部	故里や猫恋すべく長じたり	猫の戀	動物
1950	明治31年	春の部	飯だこの果敢なかりける最期かな	飯だこ	動物
1951	明治31年	春の部	飯だこのこれより大なるはなし	飯だこ	動物
1952	明治31年	春の部	二三間雉子鳴き飛で草に入る	雉子	動物
1953	明治31年	春の部	野は焼けてきぎす鳴くなり雨の中	雉子	動物
1954	明治31年	春の部	前山にきぎす鳴くなり渡し舟	雉子	動物
1955	明治31年	春の部	岡の家畑もありて雲雀なく	雲雀	動物
1956	明治31年	春の部	川沿や青麦畑を春の風	春風	天文
1957	明治31年	春の部	回文の錦織出す春の風	春風	天文
1958	明治31年	春の部	雁帰る昼とぞしたる小村かな	帰る雁	動物
1959	明治31年	春の部	宿とりて二階に居れば雁の行く	帰る雁	動物
1960	明治31年	春の部	驛尽きて吾は南し雁北す	帰る雁	動物
1961	明治31年	春の部	別荘の月に梅見る主客かな	梅見	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1962	明治31年	春の部	春雨や夜密かに泣く娼家の子	春雨	天文
1963	明治31年	春の部	杼を停め帰雁の雲に看入る哉	帰る雁	動物
1964	明治31年	春の部	驛せはし帰る雁がね來るつばめ	雑	雑
1965	明治31年	春の部	花菜すこしてふ / \ 契浅からず	蝶	動物
1966	明治31年	春の部	蛇穴を出づ半して眠りある	蛇穴を出す	動物
1967	明治31年	春の部	石暖かに蛇の出でたる氣はひあり	蛇穴を出す	動物
1968	明治31年	春の部	大きうて歌も得よまぬ蛙かな	蛙	動物
1969	明治31年	春の部	河上や吹き来る風に梅が香す	梅	植物
1970	明治31年	春の部	梅が香の水を吹き来る夜船かな	梅	植物
1971	明治31年	春の部	客を得つ茗荷たけを探る裏の畑	茗荷竹	植物
1972	明治31年	春の部	茗荷たけを得べくと妻は裏にいづ	茗荷竹	植物
1973	明治31年	春の部	若艸を茵となしつ物語	若草	植物
1974	明治31年	春の部	露の臺の苦きを愛す朝の膳	露の臺	植物
1975	明治31年	春の部	白うして長き根芹の雫かな	芹	植物
1976	明治31年	春の部	人稀に梅猶早き山路かな	梅	植物
1977	明治31年	春の部	山路来て野を暖かに鞍の上	暖	時候
1978	明治31年	春の部	村店に野路の花見の人数かな	花見	人事
1979	明治31年	春の部	依々として柳の枝を放たざる	柳	植物
1980	明治31年	春の部	庭先に陽炎立つや雨あがり	陽炎	天文
1981	明治31年	春の部	膳出でぬ芽独活白魚若夫婦	雑	雑
1982	明治31年	春の部	口を閉ぢ田螺は遂に物いはず	田螺	動物
1983	明治31年	春の部	白魚に箸は春慶臭きかな	白魚	動物
1984	明治31年	春の部	狼烟あぐれば褒姒が笑ふ春の風	春風	天文
1985	明治31年	春の部	古臼の水温むべく日南す	水温む	地理
1986	明治31年	春の部	朧夜を李獅々が家に行幸哉	朧	天文
1987	明治31年	春の部	出代に居残りし女主ぶり	出代	人事
1988	明治31年	春の部	出代や夜更けて語る台所	出代	人事
1989	明治31年	春の部	隣国の使者の一行かすみけり	霞	天文
1990	明治31年	春の部	梅林を出て、北斗を拜すかな	梅	植物
1991	明治31年	春の部	嶺北に村あり雨に寒食す	寒食	人事
1992	明治31年	春の部	江北の梅の木古くして疎なり	梅	植物
1993	明治31年	春の部	浦東風や船に残んの灯が見ゆる	東風	天文
1994	明治31年	春の部	江南や梅花淡月簫の音	梅	植物
1995	明治31年	春の部	琴に挑む女かほよし桃の花	桃	植物
1996	明治31年	春の部	長き日の和船繕ふ濱辺かな	日永	時候
1997	明治31年	春の部	根岸菴に春夜の鐘や東叡山	春夜	時候
1998	明治31年	春の部	姫君の東下りや春の風	春風	天文
1999	明治31年	春の部	白き馬の東に飛びぬ梅月夜	梅	植物
2000	明治31年	春の部	春の水滾々として東流す	春の水	地理
2001	明治31年	春の部	人中に南無佛と申す櫻哉	櫻	植物
2002	明治31年	春の部	南海に眞珠採るべく日暖か	暖	時候
2003	明治31年	春の部	春さむし北方には、き星を見る	春寒	時候
2004	明治31年	春の部	昭君の北に行く日をつばめ来る	燕	動物
2005	明治31年	春の部	桃咲いて美なる浣紗の女かな	桃	植物
2006	明治31年	春の部	三月三日妓を宰相の家に観る	上巳	人事
2007	明治31年	春の部	青柳の欄を拂て雫せり	柳	植物
2008	明治31年	春の部	畑中の一本柳暮れにけり	柳	植物
2009	明治31年	春の部	雨暖かに柳烟るや長き土手	柳	植物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2010	明治31年	春の部	高張や旅館の柳しだれつゝ	柳	植物
2011	明治31年	春の部	退朝や御講の柳静かにて	柳	植物
2012	明治31年	春の部	雨一ト日柳に暗き小窓かな	柳	植物
2013	明治31年	春の部	鞍壺や柳かぶさる門せまみ	柳	植物
2014	明治31年	春の部	御手洗の水にしだるゝ柳か那	柳	植物
2015	明治31年	春の部	瘤高く幹くねりたる柳か那	柳	植物
2016	明治31年	春の部	僧房に碁客相對す日の永き	日永	時候
2017	明治31年	春の部	商人と連れて鄙路の日は長し	日永	時候
2019	明治31年	春の部	病みやせて出代の日の部屋を出る	出代	人事
2020	明治31年	春の部	日麗か眼病院の色がらす	麗	時候
2021	明治31年	春の部	薬にせまく田螺殻焼く裏の畑	田螺	動物
2022	明治31年	春の部	痘除けの赤き幣吹く春の風	春風	天文
2023	明治31年	春の部	くすし申さく白魚の如きを少し召せ	白魚	動物
2024	明治31年	春の部	菴主病むで菊の根分くる人もなし	菊根分	人事
2025	明治31年	春の部	木瓜咲くや日たゞ聞なる村の醫者	木瓜	植物
2026	明治31年	春の部	風引いて月に簾下ろす梨の花	梨の花	植物
2027	明治31年	春の部	薬賣刀を舞はず日永か那	日永	時候
2028	明治31年	春の部	ちご病みて雛に親しむ飽き易き	雛祭	人事
2029	明治31年	春の部	里見えて春の社日の太鼓かな	社日	時候
2030	明治31年	春の部	菜の花や門鎖したる避病院	菜の花	植物
2031	明治31年	春の部	買て放つ亀の子活きぬ春の川	春の川	地理
2032	明治31年	春の部	淡雪の消えも入りたき病める戀	淡雪	天文
2033	明治31年	春の部	出代を孕める人の母訪ひぬ	出代	人事
2034	明治31年	春の部	ひとり病むで灯ともす春の夕寒し	春宵	時候
2035	明治31年	春の部	山吹や水に映りし病める顔	山吹	植物
2036	明治31年	春の部	薬賣る店にさし込む春日かな	春の日	天文
2037	明治31年	春の部	腫物の薄痒くなりぬ春の風	春風	天文
2038	明治31年	春の部	はては乱舞酒腥き落花哉	落花	植物
2039	明治31年	春の部	病む人の粥少し残り春さむし	春寒	時候
2040	明治31年	春の部	陽炎や漢薬植ゑし医者之庭	陽炎	天文
2041	明治31年	春の部	春の夜の産声聞ゆ隣かな	春夜	時候
2042	明治31年	春の部	麗かや人参つむで高麗船が	麗	時候
2043	明治31年	春の部	薬臭き人に逢ひけり春の宵	春宵	時候
2044	明治31年	春の部	師の坊の塞がざる爐に病みわびぬ	爐塞	人事
2046	明治31年	春の部	百艸を嘗め試みつ春の風	春風	天文
2047	明治31年	春の部	永き日の碁石を下すこと遅し	日永	時候
2048	明治31年	春の部	山寺の木魚も絶えて日の永き	日永	時候
2049	明治31年	春の部	永き日の沖に魚つる獨か那	日永	時候
2050	明治31年	春の部	野に出でゝ讚美歌唄ふ日永哉	日永	時候
2052	明治31年	春の部	凧の糸柱に繋ぐ響かな	凧	人事
2053	明治31年	春の部	賣れ残る武者繪の凧の物憂かり	凧	人事
2054	明治31年	春の部	ありたけの糸伸ばしたり凧	凧	人事
2055	明治31年	春の部	大凧の川を越え来しうなり哉	凧	人事
2056	明治31年	春の部	風ゆるくせんすべもなし凧	凧	人事
2057	明治31年	春の部	とかくして大凧打あげぬ	凧	人事
2058	明治31年	春の部	宿とりて二階に居れば凧	凧	人事
2059	明治31年	春の部	鄙に入て日は猶高し凧	凧	人事
2060	明治31年	春の部	切凧の骨徒らに太かりし	凧	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2061	明治31年	春の部	凧の音の聞えずなりて日は暮れぬ	凧	人事
2062	明治31年	春の部	縁日に求めし梅のはや散りぬ	梅	植物
2063	明治31年	春の部	雪解に不動明王突立ちぬ	雪解	地理
2064	明治31年	春の部	一門をあつめて瀬のまつりか那	瀬の祭	時候
2065	明治31年	春の部	涅槃会のすむで涅槃像さびし	涅槃會	人事
2066	明治31年	春の部	馬市のまくさ飛散る春の風	春風	天文
2067	明治31年	春の部	門前に來鳴く鶯来ずなりぬ	鶯	動物
2069	明治31年	春の部	朧夜を茸毛の駒の魁けぬ	朧	天文
2070	明治31年	春の部	心せよ餘寒に風を引きやすし	餘寒	時候
2071	明治31年	春の部	盆梅のこぼれて歌書の葉か那	盆梅	植物
2073	明治31年	春の部	かりすまひして古雛かざりける	雛祭	人事
2074	明治31年	春の部	乙女子の雛に團居す物語	雛祭	人事
2075	明治31年	春の部	本箱や物憂かるべく雛古りし	雛祭	人事
2076	明治31年	春の部	雛の間に蠟燭ともす禿か那	雛祭	人事
2077	明治31年	春の部	雛市の灯ともす頃を雨がふる	雛市	人事
2078	明治31年	春の部	人戀し雛包みたる古錦	雛祭	人事
2079	明治31年	春の部	雛の間に伯母と寐し子や絹行灯	雛祭	人事
2080	明治31年	春の部	今更に雛に戀する身となりぬ	雛祭	人事
2081	明治31年	春の部	雛市には雛買はまく思ふか那	雛市	人事
2082	明治31年	春の部	雛棚に巣さびしき住居か那	雛祭	人事
2084	明治31年	春の部	闇の夜や沼に映りし野火の影	野山焼	人事
2085	明治31年	春の部	物の香や焼けし野を吹く弱き風	野山焼	人事
2086	明治31年	春の部	野を焼いて山焼けかゝる風強し	野山焼	人事
2087	明治31年	春の部	湖の上を焼野の烟這ひかゝる	野山焼	人事
2088	明治31年	春の部	二階から夜の野を焼く火が見えし	野山焼	人事
2089	明治31年	春の部	藪陰に野火のくすぶる小雨の日	野山焼	人事
2090	明治31年	春の部	野も山も焼けて夕を雨となる	野山焼	人事
2091	明治31年	春の部	一ト処野焼の烟立ちのぼる	野山焼	人事
2092	明治31年	春の部	夜に入りてはげしうなりし野火の風	野山焼	人事
2093	明治31年	春の部	人さはぐ野火官山に移るべう	野山焼	人事
2095	明治31年	春の部	穴を出るや蛇忽ちに見えずなり	蛇穴を出る	動物
2096	明治31年	春の部	試に穴を出でたる蛇ならし	蛇穴を出る	動物
2097	明治31年	春の部	穴に憂く出つべくと蛇のうき心	蛇穴を出る	動物
2098	明治31年	春の部	蛇穴を出づべく少し早かりし	蛇穴を出る	動物
2099	明治31年	春の部	風腥くうはばみ穴を出でけらし	蛇穴を出る	動物
2100	明治31年	春の部	出でし穴を去るべく蛇の愁あり	蛇穴を出る	動物
2101	明治31年	春の部	穴を出でゝ蛇眠るべく草若し	蛇穴を出る	動物
2102	明治31年	春の部	穴を出でゝ蛇人を見る餘所心	蛇穴を出る	動物
2103	明治31年	春の部	蛇出づべく穴にさし込む朝日哉	蛇穴を出る	動物
2104	明治31年	春の部	穴を出でし蛇に悔あり寒き雨	蛇穴を出る	動物
2105	明治31年	春の部	親蛇が穴を出でたり子泣くらむ	蛇穴を出る	動物
2106	明治31年	春の部	穴を出づる咫尺にして眠る蛇	蛇穴を出る	動物
2107	明治31年	春の部	蛇穴を出で孔子容れられず	蛇穴を出る	動物
2108	明治31年	春の部	蛇穴を出づ重耳主従行く	蛇穴を出る	動物
2109	明治31年	春の部	楚に囚はれ穴を出でたる蛇を見る	蛇穴を出る	動物
2110	明治31年	春の部	蛇穴を出づるや梁甫吟起る	蛇穴を出る	動物
2111	明治31年	春の部	蛇穴を出づる時遠人家を懐ふ	蛇穴を出る	動物
2112	明治31年	春の部	国破れ蛇穴を出づ城春なり	蛇穴を出る	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2113	明治31年	春の部	雛店の前に花賣る翁か那	雛市	人事
2114	明治31年	春の部	古雛の吾宿わびし人も來ず	雛祭	人事
2115	明治31年	春の部	雛市にとあるを買はまほしかりし	雛市	人事
2116	明治31年	春の部	昨日焼きし野を土臭き風が吹く	野山焼	人事
2118	明治31年	春の部	花に酔ふて乞食女に戯るゝ	花	植物
2119	明治31年	春の部	紫の霞棚引く宮の森	霞	天文
2120	明治31年	春の部	簾捲いて琴に對へば春の月	春の月	天文
2121	明治31年	春の部	田螺なく背戸に落ちたり三日の月	田螺	動物
2123	明治31年	春の部	見送るがふりすてがたき柳か那	柳	植物
2125	明治31年	春の部	賀びや雛まゐらす桃の宿	桃	植物
2126	明治31年	春の部	夫婦して今日も打つなり寺の畑	畑打ち	人事
2127	明治31年	春の部	藏普請濟むで辛夷の花咲きぬ	辛夷	植物
2128	明治31年	春の部	連翹を啄みこぼし鳥飛びぬ	連翹	植物
2129	明治31年	春の部	なかなか長閑けき日なり山の寺	長閑	時候
2131	明治31年	春の部	異國船に鳴の子走る春の風	春風	天文
2132	明治31年	春の部	島守が館の旗や春の風	春風	天文
2133	明治31年	春の部	立てかけし琴の響や春の風	春風	天文
2134	明治31年	春の部	淺草や喇叭筆築春の風	春風	天文
2135	明治31年	春の部	春風の野に小便す二人づれ	春風	天文
2136	明治31年	春の部	造船の匏屑ちる春の風	春風	天文
2137	明治31年	春の部	東郊の春風二十四番か那	春風	天文
2138	明治31年	春の部	春風の沖の方より白帆か那	春風	天文
2139	明治31年	春の部	春風や妹がひれふる松浦潟	春風	天文
2140	明治31年	春の部	春風の道尽て寺の門に入る	春風	天文
2142	明治31年	春の部	管絃や春風吹満つ十二樓	春風	天文
2143	明治31年	春の部	造作の檜匂ふや春の風	春風	天文
2144	明治31年	春の部	縁に出でゝ障子張り居るや春の風	春風	天文
2145	明治31年	春の部	漣や春風渡る昆明池	春風	天文
2146	明治31年	春の部	春風や笹舟放つ池の面	春風	天文
2147	明治31年	春の部	梅遅く春風寒き伽藍か那	春風	天文
2148	明治31年	春の部	春風の吹やむ夕や花くもり	春風	天文
2149	明治31年	春の部	少しくもり春風寒し梅の道	春風	天文
2150	明治31年	春の部	馬に乗る追分村や春の風	春風	天文
2151	明治31年	春の部	春風や片側町の紺暖簾	春風	天文
2152	明治31年	春の部	洞穴に浪出つ入りつ日の永き	日永	時候
2153	明治31年	春の部	春の宵あけの玉垣灯のもるゝ	春宵	時候
2155	明治31年	春の部	永き日の馬まばらなる牧場か那	日永	時候
2156	明治31年	春の部	拜領の馬繋ぐ庭のさくらか那	櫻	植物
2157	明治31年	春の部	馬蹄軽く江南を春の風吹くよ	春風	天文
2158	明治31年	春の部	日は永く邯鄲の少年馬を馳す	日永	時候
2159	明治31年	春の部	厩から馬首出す花菜か那	菜の花	植物
2160	明治31年	春の部	春の夜の陣に琵琶きく馬上か那	春夜	時候
2161	明治31年	春の部	馬に乗て温泉の村に入るや春の雨	春雨	天文
2162	明治31年	春の部	春風や伶人馬に乗て行く	春風	天文
2163	明治31年	春の部	瘦馬に母乗せてゆく涅槃か那	涅槃會	人事
2164	明治31年	春の部	馬上にして槍の穂洗ふ柳か那	柳	植物
2165	明治31年	春の部	馬を下りて刃を洗ふ柳か那	柳	植物
2166	明治31年	春の部	春月や画ける欄間彫れる棟	春の月	天文



春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2167	明治31年	春の部	柳折り柳折り春風路傍の情	春風	天文
2168	明治31年	春の部	坐につけば紅白のさくら餅が出る	桜餅	人事
2169	明治31年	春の部	柳ありて揚弓店と灯をともす	柳	植物
2170	明治31年	春の部	王城の北や上野の森おぼろ	朧	天文
2171	明治31年	春の部	肉くれなゐ點心みとり春の宵	春宵	時候
2172	明治31年	春の部	春閨の蝶や白馬の人遠く	蝶	動物
2173	明治31年	春の部	六法やくるわのさくら男伊達	櫻	植物
2174	明治31年	春の部	遊廓に異人乗込む春の月	春の月	天文
2175	明治31年	春の部	朧夜の廓逃げ来し二人か那	朧	天文
2176	明治31年	春の部	二三人廓出てゆく春の雨	春雨	天文
2177	明治31年	春の部	春さめや傾城部の小酒もり	春雨	天文
2178	明治31年	春の部	吉原の夜さくらを見るや田舎人	櫻	植物
2179	明治31年	春の部	花の廓若き男のなぶられし	花	植物
2180	明治31年	春の部	雨の廓春夢正にこまやかなり	春の夢	人事
2181	明治31年	春の部	客を送る柳のかけや京言葉	柳	植物
2182	明治31年	春の部	花に酔ふて遊女見に行く人数か那	花	植物
2183	明治31年	春の部	廓見ゆ菜の花街道横に折れ	菜の花	植物
2184	明治31年	春の部	三階や川に沿へる廓の春風樓	春風	天文
2185	明治31年	春の部	川千鳥若き遊女の京言葉	千鳥	動物
2186	明治31年	春の部	女連れて廓のさくら見に出でし	櫻	植物
2187	明治31年	春の部	入口の青柳見ゆる廓かな	柳	植物
2188	明治31年	春の部	心中のさはぎに廓あけやすき	短夜	時候
2190	明治31年	春の部	靨黴や玉種うる山の春の雲	春の雲	天文
2191	明治31年	春の部	春の夜の汐みち来るや磯くもり	春夜	時候
2192	明治31年	春の部	巢にこもる孕雀のなやみか那	孕雀	動物
2193	明治31年	春の部	うらゝかや寝殿の上を舞へる鳶	麗	時候
2194	明治31年	春の部	東京のまつりを語り畑打つ	畑打ち	人事
2195	明治31年	春の部	菜の花に大根の花のひよろ長き	雑	雑
2196	明治31年	春の部	萩垣の萩の芽もえつ茶のけふり	萩若葉	植物
2197	明治31年	春の部	蛤の籠に蓋すや磯のくさ	蛤	動物
2198	明治31年	春の部	垂跡や花の菩薩の人ばかり	花祭	人事
2199	明治31年	春の部	故郷にある日炬燵を塞きけり	炬燵塞ぐ	人事
2201	明治31年	春の部	家に帰れば早巢立ちけり燕の子	燕の子	動物
2202	明治31年	春の部	頷赤くはしき燕の夫婦か那	燕	動物
2203	明治31年	春の部	堂上に巢くふべく乙鳥飛入りぬ	燕	動物
2204	明治31年	春の部	焼跡や乙鳥飛びかふ日もすがら	燕	動物
2205	明治31年	春の部	棟の上に雨の乙鳥のならびか那	燕	動物
2206	明治31年	春の部	入船やつばくらめ飛ぶ港町	燕	動物
2207	明治31年	春の部	乙鳥や江戸参勤の諸大名	燕	動物
2208	明治31年	春の部	此頃や洛陽に入るつばくらめ	燕	動物
2209	明治31年	春の部	三階や昼の廓のつばくらめ	燕	動物
2210	明治31年	春の部	謫せられて鳴に燕をなつかしむ	燕	動物
2212	明治31年	春の部	五六人歌題えらびつ春の雨	春雨	天文
2214	明治31年	春の部	女坂を上れば天神の春の月	春の月	天文
2216	明治31年	春の部	椿落つ地水火風空椿落つ	椿	植物
2217	明治31年	春の部	もろく落ちし大輪の赤椿か那	椿	植物
2218	明治31年	春の部	物かいて居れば小庭に蝶が来る	蝶	動物
2219	明治31年	春の部	山吹にぬれて出でたり寺のちご	山吹	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2220	明治31年	春の部	山吹の歌知る茶屋の女か那	山吹	植物
2222	明治31年	春の部	村熟を晝鎖しあり鳴蛙	蛙	動物
2223	明治31年	春の部	蛙鳴く吉原田圃小提灯	蛙	動物
2224	明治31年	春の部	其中に声高き蛙遠き哉	蛙	動物
2225	明治31年	春の部	聴蛙亭の石灯籠に灯をともし	蛙	動物
2226	明治31年	春の部	野の店や昼の蛙の鳴きやまず	蛙	動物
2227	明治31年	春の部	小蛙の昼さはがしき宿場か那	蛙	動物
2228	明治31年	春の部	蛙祭る祠のうしろ蛙鳴	蛙	動物
2229	明治31年	春の部	小蛙や稍々ありて鳴く大蛙	蛙	動物
2230	明治31年	春の部	雲低れて遠方に鳴く蛙哉	蛙	動物
2231	明治31年	春の部	閑々と怒れる蛙雲を吐く	蛙	動物
2232	明治31年	春の部	ひとゝころ蛙鳴きやまず虹出でぬ	蛙	動物
2234	明治31年	春の部	女生徒の蚕飼ふたる一室か那	蚕	動物
2235	明治31年	春の部	蚕飼ふ此頃夫婦家にあり	蚕	動物
2236	明治31年	春の部	起きて見れば蚕の村に灯がともる	蚕	動物
2237	明治31年	春の部	大勢や庄屋に蚕飼ふ女	蚕	動物
2238	明治31年	春の部	桑の香や蚕の部屋のうす暗き	蚕	動物
2239	明治31年	春の部	妻となり夫となりぬ蚕飼ふ	蚕	動物
2240	明治31年	春の部	蚕かふ背戸を出てゆく小唄哉	蚕	動物
2241	明治31年	春の部	故郷に帰れば妻は蚕かひか那	蚕	動物
2242	明治31年	春の部	しんかんと蚕眠れる昼間か那	蚕	動物
2243	明治31年	春の部	養蚕所の二階に見えし女ども	蚕	動物
2244	明治31年	春の部	養蚕に雇はれて居るいとこづれ	蚕	動物
2245	明治31年	春の部	勝手より蚕見に來し隠居か那	蚕	動物
2246	明治31年	春の部	養蚕がすむで祭ある小村か那	蚕	動物
2247	明治31年	春の部	原中に堀めぐらせり養蚕所	蚕	動物
2248	明治31年	春の部	試に蚕かひたる世帯か那	蚕	動物
2249	明治31年	春の部	行く程に都のはづれ蚕時	蚕	動物
2251	明治31年	春の部	兄弟が訟の庭や棟棠華	棟	植物
2252	明治31年	春の部	行春を流罪と決す便か那	行春	時候
2253	明治31年	春の部	耕して甘棠を謳ふ野人か那	耕	人事
2254	明治31年	春の部	百姓の家に公事きく辛夷か那	辛夷	植物
2255	明治31年	春の部	石だゝみ状師が家の柳か那	柳	植物
2256	明治31年	春の部	役人の衣更へたり決断所	更衣	人事
2257	明治31年	春の部	大庭に水打つ天下の決断所	打水	人事
2258	明治31年	春の部	訟を断ず秋霜の如きか那	秋の霜	天文
2259	明治31年	春の部	名奉行のしのびありきす村の秋	秋	時候
2260	明治31年	春の部	竹にはさむ直訴の状や獵の道	狩	人事
10656	明治31年	春の部	梅が香やお京は六角御幸町	梅	植物
10585	明治31年	春の部	踏迷古道行くや百千鳥	百千鳥	動物
2713	明治32年	春の部	青空や松の梢のいかのぼり	凧	人事
2715	明治32年	春の部	むかしぶりや子の日の御幸絵巻物	子の日の遊び	人事
2716	明治32年	春の部	夕立に飛龍を描く墨はねし	夕立	天文
2717	明治32年	春の部	眉を描く京の女や秋海棠	秋海棠	植物
2718	明治32年	春の部	棧や画けるが如き蜀の秋	秋	時候
2719	明治32年	春の部	大なる武者繪の凧のうなり哉	凧	人事
2720	明治32年	春の部	菊咲くや古き繪を見る奈良の寺	菊	植物
2721	明治32年	春の部	絵具皿に陽炎の立つ写生哉	陽炎	天文

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2722	明治32年	春の部	奉納の繪馬かつぎ行く春の風	春風	天文
2723	明治32年	春の部	満開の牡丹画きし絹地か那	牡丹	植物
2724	明治32年	春の部	墨の香や素縑に画く梅の花	梅	植物
2726	明治32年	春の部	お小姓の戀せられたる櫻か那	櫻	植物
2727	明治32年	春の部	女唄ふ蝦夷が小島や草薺ゆる	草薺	植物
2728	明治32年	春の部	牛曳いて出るや小村の桃日和	桃	植物
2729	明治32年	春の部	よき幟ほしがる小供心か那	幟	人事
2730	明治32年	春の部	小意気なる藝者通りぬ門涼み	納涼	人事
2731	明治32年	春の部	小流や野菜花さく風呂の月	雑	雑
2732	明治32年	春の部	等閑や小草花咲く裏の道	草花	植物
2733	明治32年	春の部	寒潭に小さき月を印したる	寒	時候
2734	明治32年	春の部	寒垢離を行ず小兵の男哉	寒垢離	人事
2735	明治32年	春の部	小波や寒日うすき山の池	寒	時候
2737	明治32年	春の部	海苔粗朶に足引搔かん女の子	海苔	植物
2738	明治32年	春の部	冴返る塗縁をふむ跣足かな	冴返	時候
2739	明治32年	春の部	踏青の足もよごれぬ日和かな	踏青	人事
2740	明治32年	春の部	春の宵足に温泉をそゝぎけり	春宵	時候
2741	明治32年	春の部	若草に鶏の子の足かくれけり	若草	植物
2742	明治32年	春の部	散る花や毛だらけの足踏伸ばす	落花	植物
2743	明治32年	春の部	陽炎や岩が根ぬらす足の跡	陽炎	天文
2744	明治32年	春の部	ぬるむ水足の甲越すかち渉り	水温む	地理
2746	明治32年	春の部	沐浴して鏡に向ふ桃の花	桃	植物
2747	明治32年	春の部	芽をふきし傾城部屋の柳か那	柳	植物
2748	明治32年	春の部	小屏風に春の灯のほのあかき	春燈	人事
2749	明治32年	春の部	春雨や傾城部屋の小行灯	春雨	天文
2750	明治32年	春の部	送り出て柳に袖をかくしけり	柳	植物
2751	明治32年	春の部	傾城の梅の紅きをめづるかな	梅	植物
2752	明治32年	春の部	傾城の柳をくぐるともし哉	柳	植物
2753	明治32年	春の部	蠟燭や金釵斜に春の宴	春	時候
2754	明治32年	春の部	かんばしき酒に酔ひたり春の宴	春	時候
2755	明治32年	春の部	小屏風や念佛幽かに春の雨	春雨	天文
2757	明治32年	春の部	神立たす天浮橋うらゝかに	麗	時候
2758	明治32年	春の部	月の梅橋に人語の響かな	梅	植物
2759	明治32年	春の部	人去て橋は柳に暮れんとす	柳	植物
2760	明治32年	春の部	鄙路行くや土橋にもゆる草日和	草薺	植物
2761	明治32年	春の部	藪入や橋の袂の乳母が店	藪入	人事
2762	明治32年	春の部	行過ぎし衣の匂や橋おぼろ	朧	天文
2763	明治32年	春の部	満汐に橋洗はれし涼しさよ	涼し	時候
2764	明治32年	春の部	唐様や白蓮房に架けし橋	蓮	植物
2765	明治32年	春の部	錫杖の石橋渡る雲の峯	雲の峰	天文
2766	明治32年	春の部	谷川や秋の雲見る丸木橋	秋の雲	天文
2768	明治32年	春の部	かしこまる烏帽子尊し梅の花	梅	植物
2769	明治32年	春の部	神の井に烏帽子を拂ふ柳かな	柳	植物
2770	明治32年	春の部	樹の下の草緑りなり春の雪	春雪	天文
2771	明治32年	春の部	青草にはぢかれにけり春の雪	春雪	天文
2772	明治32年	春の部	出て行くや沈丁臭き寺のちご	沈丁花	植物
2773	明治32年	春の部	紅梅の紅きを愛づる人もあり	梅	植物
2774	明治32年	春の部	泥を出て田螺見てゐる山の雲	田螺	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2775	明治32年	春の部	門川に田螺鳴くべき曇りかな	田螺	動物
2776	明治32年	春の部	大方の雛飾りし二日哉	雛祭	人事
2777	明治32年	春の部	雛買ひに連立出でしめをと哉	雛市	人事
2779	明治32年	春の部	滝の音に春日間なる對坐哉	春日	時候
2780	明治32年	春の部	畑中や十二社詣春の風	春風	天文
2781	明治32年	春の部	湛えては松が根ひたす春の水	春の水	地理
2782	明治32年	春の部	土手の日や古葉を搔けば草萌えし	草萌	植物
2783	明治32年	春の部	畑打の人を喚ぶなり暮の道	畑打ち	人事
2784	明治32年	春の部	麗かの水を渡りぬ美なる哉	麗	時候
2785	明治32年	春の部	清人のよき衣着たる柳か那	柳	植物
2786	明治32年	春の部	灯を持って女見えたり春の宿	春	時候
2787	明治32年	春の部	春の日の虹あらはれぬ滝しぶき	春の日	天文
2788	明治32年	春の部	此頃の日和頼もし萌ゆる草	草萌	植物
2790	明治32年	春の部	畑打やものなつかしき話振	畑打ち	人事
2791	明治32年	春の部	逢着し得たり彼岸の焼豆腐	彼岸	人事
2792	明治32年	春の部	物詣彼岸の雲の尊とかり	彼岸	人事
2793	明治32年	春の部	春の水十二叢祠を繞りけり	春の水	地理
2794	明治32年	春の部	碁客相逢ふて十二社の暮遅き	遅日	時候
2795	明治32年	春の部	雉打て邯鄲の市に帰る哉	雉子	動物
2796	明治32年	春の部	氷解けて淵となりたる巖かな	氷解	地理
2797	明治32年	春の部	いさゝかの花菜見出でし山路哉	菜の花	植物
2798	明治32年	春の部	畑打や去年の債を語合ふ	畑打ち	人事
2799	明治32年	春の部	白魚や水打そぐ籃の草	白魚	動物
2801	明治32年	春の部	鞦韆に鶏鳴いてゐる田舎哉	鞦韆	人事
2802	明治32年	春の部	岩鼻に蕨も取らぬひとりかな	蕨	植物
2803	明治32年	春の部	竹に近く家を移しぬ竹の秋	竹の秋	植物
2804	明治32年	春の部	はらからの列見を競ふかざし哉	櫻	植物
2805	明治32年	春の部	摘草の茅花もまじりこぼれけり	摘草	人事
2806	明治32年	春の部	妻機を下らず燕堂に巣くふ	燕	動物
2807	明治32年	春の部	賜や錦させゆく鶏合	鶏合	人事
2808	明治32年	春の部	てふ / \ の物思ふらん小さき胸	蝶	動物
2809	明治32年	春の部	門川に鍋炭流る温みかな	暖	時候
2810	明治32年	春の部	やゝ遅き末黒芒の芽ばへかな	末黒の芒	植物
2811	明治32年	春の部	佛菩薩大千世界花盛り	花	植物
2813	明治32年	春の部	玉碗や美酒を盛り来る桃の花	桃	植物
2814	明治32年	春の部	桃の村を出づれば漢の代となりぬ	桃	植物
2815	明治32年	春の部	曲水や桃盛りなる酔心地	桃	植物
2816	明治32年	春の部	桃の岸に流れ寄りけり古き椀	桃	植物
2817	明治32年	春の部	白桃の蒼勝なり寒食す	寒食	人事
2818	明治32年	春の部	満朝の小人原や桃李	雑	雑
2819	明治32年	春の部	桃の枝を賜つて朝を罷るかな	桃	植物
2820	明治32年	春の部	位低く児孫に富めり桃の花	桃	植物
2821	明治32年	春の部	谷深く平家の末や桃の村	桃	植物
2822	明治32年	春の部	桃咲いて帝夜毎の微行かな	桃	植物
2824	明治32年	春の部	根を分けて菊に黄金を給はりし	菊根分	人事
2825	明治32年	春の部	人泊めて菊の根分くる旦か那	菊根分	人事
2826	明治32年	春の部	小童の菊の根分に侍りし	菊根分	人事
2827	明治32年	春の部	暮の雨菊の白根のこぼれかな	菊根分	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2828	明治32年	春の部	根分すと菊園に出づ荒れしかな	菊根分	人事
2829	明治32年	春の部	帰省して一ト日は菊の根を分けし	菊根分	人事
2830	明治32年	春の部	市人の菊の根分や銭ほしき	菊根分	人事
2831	明治32年	春の部	白髪 <small>の</small> 菊の根分に召されけり	菊根分	人事
2832	明治32年	春の部	根も分けず菊に荒れたり古き庭	菊根分	人事
2833	明治32年	春の部	根分して菊に故事など文を見る	菊根分	人事
2835	明治32年	春の部	使しててふ / \ 神と語るかな	蝶	動物
2837	明治32年	春の部	麗かの繡したり美なる雲	麗	時候
2839	明治32年	春の部	町中に春の埃りや女連れ	春塵	天文
2841	明治32年	春の部	日に疎き梨の蒼や茶のけふり	梨の花	植物
2843	明治32年	春の部	菜の花に鍛冶が家見る眞昼哉	菜の花	植物
2845	明治32年	春の部	鶏の子やぬるむ水のむ器	水温む	地理
2847	明治32年	春の部	陽炎の草を離れてもゆる哉	陽炎	天文
2849	明治32年	春の部	唐人の春の冠うるはしき	春	時候
2851	明治32年	春の部	江の島の神の細工や春の貝	春	時候
2852	明治32年	春の部	鍋小さく長閑に物の煮ゆる哉	長閑	時候
2853	明治32年	春の部	永き日の物の種まくひとり哉	日永	時候
2855	明治32年	春の部	函根の山煙揚るところ / \	雑	雑
2857	明治32年	春の部	砂利舟の砂利こぼれけり春の風	春風	天文
2859	明治32年	春の部	山中は椿に物の静かなり	椿	植物
2861	明治32年	春の部	わざおぎや菜種の中の戻り路	菜の花	植物
2863	明治32年	春の部	菜の花や鐘もつかざる山の寺	菜の花	植物
2865	明治32年	春の部	雲ゆくや山冷かに蔭の臺	蔭の臺	植物
2867	明治32年	春の部	一村や晴れて富士見る柿若葉	柿若葉	植物
2869	明治32年	春の部	菜の花の美なる山河を夢むらん	菜の花	植物
2871	明治32年	春の部	春の夜の洗足ぬるき旅籠かな	春夜	時候
2873	明治32年	春の部	旭のさすや羽衣乾く草の蝶	蝶	動物
2875	明治32年	春の部	てふの眉誰が家の子の描きけん	蝶	動物
2877	明治32年	春の部	葉櫻にあしたの風や白き幣	葉櫻	植物
2879	明治32年	春の部	てふ / \ の麦の中から生れけり	蝶	動物
2881	明治32年	春の部	材木の菜種日和に乾くかな	菜の花	植物
2883	明治32年	春の部	搖曳の舟に見おろす海雲哉	雑	雑
2885	明治32年	春の部	思はずの小松が原や菜種さく	菜の花	植物
2887	明治32年	春の部	菜の花に染物干すや町はづれ	菜の花	植物
2889	明治32年	春の部	野社の菜の花くもり太鼓打つ	菜の花	植物
2890	明治32年	春の部	囚人の物もいはざる日永かな	日永	時候
2891	明治32年	春の部	絹張の蝙蝠今や菜種咲く	菜の花	植物
2892	明治32年	春の部	野火消えて伊吹おろしの淋しかり	野山焼	人事
2893	明治32年	春の部	菜種咲く近江の空の低き哉	菜の花	植物
2894	明治32年	春の部	近江路や菜の花車人みちて	菜の花	植物
2895	明治32年	春の部	菜の花に小さき佛の眠る哉	菜の花	植物
2896	明治32年	春の部	名物の餅に日永の埃り哉	日永	時候
2897	明治32年	春の部	花ちるや鱈にすべき籠の鮎	鮎膾	人事
2898	明治32年	春の部	降らざりし菜の花ぐもり京に入る	菜の花	植物
2899	明治32年	春の部	春の人に吾もまじりて京に入る	春	時候
2900	明治32年	春の部	雀子の一ト日は水に遊びけり	雀の子	動物
2902	明治32年	春の部	佛具屋に日當る春や奈良の町	春	時候
2903	明治32年	春の部	永き日の珠数賣る店や人もなし	日永	時候

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2904	明治32年	春の部	袈裟衣緋や紫や京の春	春	時候
2905	明治32年	春の部	木魚さらす古道具の店長閑なる	長閑	時候
2906	明治32年	春の部	連翹や古き経賣る店の先	連翹	植物
2907	明治32年	春の部	幢幔や寺寂として春の雨	春雨	天文
2908	明治32年	春の部	金色の佛黒みし櫻か那	櫻	植物
2909	明治32年	春の部	行春の小坊主鐘を撞いて出る	行春	時候
2910	明治32年	春の部	春雨や寺かりてゐる夫婦もの	春雨	天文
2911	明治32年	春の部	禅を問へば桃花に牛の乳白し	桃	植物
2913	明治32年	春の部	剛の坐の黒皮緋し梅の花	梅	植物
2914	明治32年	春の部	漂着の黒奴に春の人ばかり	春	時候
2915	明治32年	春の部	黒奴の罵合ふや花の茶屋	花	植物
2916	明治32年	春の部	路傍や花菜に人の飯黒き	菜の花	植物
2917	明治32年	春の部	注連張りし黒き巖や海朧	朧	天文
2918	明治32年	春の部	山吹や鉄漿黒々の茶屋女	山吹	植物
2919	明治32年	春の部	引越しのかまどは黒し桃の花	桃	植物
2920	明治32年	春の部	黒々と木佛並び春の月	春の月	天文
2921	明治32年	春の部	花かざし顔の黒子やよき女	花	植物
2922	明治32年	春の部	酒苦がく櫻は黒き男かな	櫻	植物
2924	明治32年	春の部	てふ／＼の止まらんとする微風かな	蝶	動物
2925	明治32年	春の部	てふ／＼の物も思はず飛んでゐる	蝶	動物
2926	明治32年	春の部	てふ／＼や舟から上り岐れ道	蝶	動物
2927	明治32年	春の部	てふ／＼や何に集る庭の昼	蝶	動物
2928	明治32年	春の部	てふ／＼の吹かれては又逢はまくす	蝶	動物
2929	明治32年	春の部	間庭や蝶も出でざる昼下り	蝶	動物
2930	明治32年	春の部	てふ／＼の顔よきが恋せられなん	蝶	動物
2932	明治32年	春の部	釣鐘や落花つめたき雨のもり	落花	植物
2933	明治32年	春の部	商人の釣鐘覗く日永哉	日永	時候
2934	明治32年	春の部	鐘つけば殷々となる朧かな	朧	天文
2935	明治32年	春の部	行春の鐘撞き出す下山かな	行春	時候
2936	明治32年	春の部	春の日の鐘釣り上ぐる群衆哉	春日	時候
2937	明治32年	春の部	鐘釣て山吹散りぬ地のゆるぎ	山吹	植物
2938	明治32年	春の部	菜の花や村に鐘鑄る人どほり	菜の花	植物
2939	明治32年	春の部	試みに鐘など撞くや春の寺	春	時候
2940	明治32年	春の部	洪鐘や寂莫として落椿	椿	植物
2941	明治32年	春の部	陽炎の大地に据ゑし鐘黒き	陽炎	天文
2942	明治32年	春の部	島原や菜種の花に振返り	菜の花	植物
2943	明治32年	春の部	菜の花に揚屋の窓や小さかり	菜の花	植物
2944	明治32年	春の部	菜の花や人を手招ぐ小傾城	菜の花	植物
2945	明治32年	春の部	島原に異人も見えて柳かな	柳	植物
2946	明治32年	春の部	傾城の八文字ふむ柳かな	柳	植物
2947	明治32年	春の部	傾城の日傘は赤き柳かな	柳	植物
2948	明治32年	春の部	洋人や菜種の花に廓出る	菜の花	植物
2949	明治32年	春の部	日は遅き壬生狂言の舞台かな	遅日	時候
2950	明治32年	春の部	菜の花に物賣る店や壬生念佛	菜の花	植物
2951	明治32年	春の部	島原は菜の花ぐもり壬生念佛	菜の花	植物
2952	明治32年	春の部	壬生寺に狂言はてし雲雀かな	雲雀	動物
2953	明治32年	春の部	飴賣も見てゐる壬生の踊かな	壬生念佛	人事
2955	明治32年	春の部	鶯や松の梢を雲帰る	鶯	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2957	明治32年	春の部	飛込んで浮きし蛙の頓悟哉	蛙	動物
2959	明治32年	春の部	遥拝の大極殿や雲雀鳴く	雲雀	動物
3793	明治33年	春の部	清泉に梅花を點ず梅の花	梅	植物
3794	明治33年	春の部	水に落つ鶴の涙や梅の花	梅	植物
3795	明治33年	春の部	徒らに焼かれし猫の戀衣	猫の戀	動物
3796	明治33年	春の部	春の夜や廊の裏の小提灯	春夜	時候
3797	明治33年	春の部	潔き白魚の目や水の中	白魚	動物
3798	明治33年	春の部	白魚をえりわけにけり海の草	白魚	動物
3799	明治33年	春の部	老猫の寝顔に戀もなかりけり	猫の戀	動物
3800	明治33年	春の部	東風吹くや松原出でし蜚少女	東風	天文
3801	明治33年	春の部	羽衣の東風に吹かれて松朝日	東風	天文
3802	明治33年	春の部	雪に落つ花釵や雪すべり	花簪	植物
3803	明治33年	春の部	人形や錦屑散る春の風	春風	天文
3804	明治33年	春の部	藻の花に手の届かざる沔哉	藻の花	植物
3805	明治33年	春の部	這ふちごのくうすべ知らで苺哉	苺	植物
3806	明治33年	春の部	諸共に泣き出す子供角力哉	角力	人事
3807	明治33年	春の部	雛抱いて唄ひ戻りぬ隣の子	雛	人事
3808	明治33年	春の部	ふらこゝの影の長さよ水の上	鞦韆	人事
3809	明治33年	春の部	提灯や路にかぶさる夜の花	花	植物
3811	明治33年	春の部	鎮守府の將軍星や王二月	二月	時候
3812	明治33年	春の部	藤茶屋の軒も柱も藤の花	藤の花	植物
3813	明治33年	春の部	出代の小錢ためたる財布かな	出代	人事
3814	明治33年	春の部	出代の人となりたる男ぶり	出代	人事
3815	明治33年	春の部	出代の主の妾を憎む哉	出代	人事
3816	明治33年	春の部	藪入の流行目にさす薬かな	藪入	人事
3817	明治33年	春の部	宮城野は畑となりし花菜哉	菜の花	植物
3818	明治33年	春の部	傾城の白石嘶春の雨	春雨	天文
3819	明治33年	春の部	遠雷に耳驚かす汐干かな	潮干	地理
3820	明治33年	春の部	よき人の足をかゆがる汐干かな	潮干	地理
3821	明治33年	春の部	踏青の終に汐干に遊びけり	潮干	地理
3822	明治33年	春の部	灯火に汐干のつとをひらきけり	潮干	地理
3823	明治33年	春の部	遠く遊ぶ汐干の人や暮遅き	潮干	地理
3824	明治33年	春の部	海苔籠朶や雨ふりやまぬ汐干潟	潮干	地理
3825	明治33年	春の部	東の海のしほひや春の雲	潮干	地理
3826	明治33年	春の部	門前の汐干に遊ぶ日もすがら	潮干	地理
3827	明治33年	春の部	男達船に物煮る汐干かな	潮干	地理
3946	明治34年	春の部	谷底の残の雪や山おろし	残雪	地理
3947	明治34年	春の部	小額による年波や猫の妻	猫の戀	動物
3948	明治34年	春の部	春の雪朧の月を見る兒に	春雪	天文
3949	明治34年	春の部	雪解の日毎 / \ や山の色	雪解	地理
3950	明治34年	春の部	初雷やさる上臈の宮ごもり	初雷	天文
3951	明治34年	春の部	囀って / \ いつこ飛去りぬ	囀	動物
3952	明治34年	春の部	語らひや身こもる田螺物うげに	田螺	動物
3953	明治34年	春の部	いもとねて神鳴をきく春の宵	春宵	時候
3954	明治34年	春の部	花にぬる鎧や春の宵しめり	春宵	時候
3955	明治34年	春の部	いつはりの皮衣やく春の宵	春宵	時候
3956	明治34年	春の部	名玉を砕いて春の夜の愁	春夜	時候
3957	明治34年	春の部	住吉の松めでたしや春の宵	春宵	時候

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3958	明治34年	春の部	山吹の庄や山吹姫を見る	山吹	植物
3959	明治34年	春の部	角落ちし氣の衰や鹿の兒	鹿の角落つ	動物
3960	明治34年	春の部	飯蛸のうかれ心や月の汐	飯だこ	動物
3961	明治34年	春の部	よき衣のけはひも春の夢心	春の夢	人事
3962	明治34年	春の部	呼びかはす雀の親子悲くも	雀の子	動物
3963	明治34年	春の部	夕かすみ絹を曳いたる如き哉	霞	天文
3964	明治34年	春の部	初午の市に上りし鯁かな	鯁	動物
3965	明治34年	春の部	春の水風にふかるゝ水の皺	春の水	地理
3966	明治34年	春の部	あらがねに陽炎もゆる車上かな	陽炎	天文
3967	明治34年	春の部	紅の帳も見えず夕吹雪	吹雪	天文
3968	明治34年	春の部	塞上の胡笳塞下の吹雪哉	吹雪	天文
3969	明治34年	春の部	むせぶらん千鳥悲しや小夜吹雪	吹雪	天文
3970	明治34年	春の部	送出て吹雪の人を望みけり	吹雪	天文
3971	明治34年	春の部	日當や背戸の種井の水浅み	種井	人事
3972	明治34年	春の部	種物の器の水やくつがへり	種物	人事
3973	明治34年	春の部	紫に光りてあやし物の種	種物	人事
3974	明治34年	春の部	水につく蕁の青みや種俵	種俵	人事
3975	明治34年	春の部	春寒したねをつくべき水溜	春寒	時候
3976	明治34年	春の部	星おちて紫烟騰りぬ胡射の春	春	時候
3977	明治34年	春の部	暁の星の柳に消えて昆明池	柳	植物
3978	明治34年	春の部	門に見る柳に絶えぬ愁かな	柳	植物
3979	明治34年	春の部	糞し去る玳瑁の梁や燕	燕	動物
3980	明治34年	春の部	芽を吹いて諸木の競心かな	芽吹く	植物
3981	明治34年	春の部	瓔珞の光や春の殿づくり	春	時候
3982	明治34年	春の部	買得たる桃の安さよ乱咲き	桃	植物
3983	明治34年	春の部	鶯のころも輕げに見ゆるかな	鶯	動物
3984	明治34年	春の部	鳥の巢や既に故郷の路にあり	鳥の巢	動物
3985	明治34年	春の部	干鱈さいて冷たく覚ゆ宵の春	春宵	時候
3986	明治34年	春の部	裏山の雑木の春や禽の声	春	時候
3987	明治34年	春の部	如月の節物遅し廿日過	如月	時候
3988	明治34年	春の部	暖や日向に据ゑし薬風呂	暖	時候
3989	明治34年	春の部	永き日の寿型をこねる一人かな	日永	時候
3990	明治34年	春の部	吊したるきゞすに遅き日脚哉	遅日	時候
3991	明治34年	春の部	山吹を括りて石を露はしぬ	山吹	植物
3992	明治34年	春の部	雛の間は寂しく思ふ四日哉	雛	人事
3993	明治34年	春の部	何草の芽ともわかざる花壇哉	草の芽	植物
3994	明治34年	春の部	黄鳥のやゝ近づいて来鳴く哉	鶯	動物
3995	明治34年	春の部	一丈もしだれて柳水を拂ふ	柳	植物
3996	明治34年	春の部	春の日の木魚を市にさらしけり	春日	時候
3997	明治34年	春の部	魏か晋か枯木か梅か古法帖	雑	雑
3998	明治34年	春の部	花束を抛ち去りぬ蜂の穴	蜂	動物
3999	明治34年	春の部	耕の人の家路や夕ぬくき	耕	人事
4000	明治34年	春の部	満面の酔や櫻に酒を吹く	櫻	植物
4001	明治34年	春の部	散りかゝる彼岸櫻や西行忌	西行忌	人事
4002	明治34年	春の部	釈典の人少ナなる香火かな	釋奠	人事
4003	明治34年	春の部	初花に心も留めず朧が妻	花	植物
4004	明治34年	春の部	種芋を盗まれにけり宵の中	種芋	植物
4005	明治34年	春の部	鳥雲に入て佛に見ゆらむ	鳥入雲	動物



春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4006	明治34年	春の部	偶々に麦ふむ足やこそかゆき	麥踏	人事
4007	明治34年	春の部	草餅を三ツ重ねたり小さき盆	草餅	人事
4008	明治34年	春の部	峯入の咒を讀上ぐる風雨かな	峰入	人事
4009	明治34年	春の部	只一ツ芽吹く接穂や忘霜	別れ霜	天文
4010	明治34年	春の部	花まさに開かん象行く吉なり	花	植物
4011	明治34年	春の部	野遊の女に歌をおくりけり	野遊	人事
4012	明治34年	春の部	花の露に濕ふ如し御身拭	御身拭	人事
4013	明治34年	春の部	耳をぬく雉子の悲鳴や泊狩	雉子	動物
4014	明治34年	春の部	ひたのぼる魚のきほひや上りやな	上り築	人事
4015	明治34年	春の部	物は夕鳥の別も憂かりけり	鳥帰る	動物
4016	明治34年	春の部	寒食や廂の前の白き花	寒食	人事
4017	明治34年	春の部	三里來て大津の鐘や鮒脍	鮒脍	人事
4018	明治34年	春の部	薪能奈良は静かに明けにけり	薪能	人事
4019	明治34年	春の部	豆の花摘まんと蜂にさゝれけり	雑	雑
4250	明治35年	春の部	鶯や人熱鉄を湯に投ず	鶯	動物
4251	明治35年	春の部	朧夜のたま / \ 鶴の鳴き去りぬ	朧	天文
4252	明治35年	春の部	雪洞の絹の光りや冴返り	冴返	時候
4253	明治35年	春の部	世の中の柳を見ても涙かな	柳	植物
4254	明治35年	春の部	鐘撞て京の日永し智恩院	日永	時候
4255	明治35年	春の部	佛閣の彼方にさびし薪能	薪能	人事
4256	明治35年	春の部	下萌の草に愁もなかりけり	草萌	植物
4257	明治35年	春の部	春の水柳洗はんばかりかな	春の水	地理
4258	明治35年	春の部	白魚の子をや生むらん宵の月	白魚	動物
4259	明治35年	春の部	炉塞や佛の飯のさびしくも	爐塞	人事
4260	明治35年	春の部	炉塞ば炉なし柳は緑にて	爐塞	人事
4261	明治35年	春の部	煩惱の炉は塞がてと悲めり	爐塞	人事
4262	明治35年	春の部	乾海苔の小家や春の雲の影	春の雲	天文
4264	明治35年	春の部	かゝる世に賢を招かば梅の花	梅	植物
4266	明治35年	春の部	桃散て神のお水もぬるみけり	桃	植物
4268	明治35年	春の部	初雷や人を惑はす張天師	初雷	天文
4269	明治35年	春の部	陽炎や大津の路の絵紙賣	陽炎	天文
4270	明治35年	春の部	温む川脛赤き鳥都鳥	水温む	地理
4272	明治35年	春の部	古の櫻もさかで哀なり	櫻	植物
4274	明治35年	春の部	畑打に鳥なく頃や歌枕	畑打ち	人事
4275	明治35年	春の部	初雷や屏風の鴛鴦の驚かず	初雷	天文
4276	明治35年	春の部	日當や競ひ出でたる落の臺	落の臺	植物
4278	明治35年	春の部	だまっては居れぬしびれもねはん像	涅槃會	人事
4280	明治35年	春の部	糊臭き雀の嘴やねはん像	涅槃會	人事
4282	明治35年	春の部	ねはん會や各が腹のへり加減	涅槃會	人事
4284	明治35年	春の部	一時佛右に寐返る別れかな	涅槃會	人事
4285	明治35年	春の部	引鶴の黄金の札も霞かな	引鶴	動物
4286	明治35年	春の部	耕して居れば咎もなかりけり	耕	人事
4287	明治35年	春の部	花くもり花なき里もなかりけり	花	植物
4288	明治35年	春の部	海棠に珊瑚の鞭をふるひけり	海棠	植物
4289	明治35年	春の部	大名の驕の沙汰や汐干狩	潮干狩	人事
4291	明治35年	春の部	綿つみの玉の臺や春寒し	春寒	時候
4292	明治35年	春の部	龍天に黄帝の御衣ひるかへる	龍登天	動物
4293	明治35年	春の部	踏青の皆珠をふむ美少年	踏青	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4294	明治35年	春の部	猫の子の父も知らざる哀かな	猫の子	動物
4295	明治35年	春の部	釈奠や上にまれます聖天子	釋奠	人事
4296	明治35年	春の部	凍とけてその若緑常盤なり	凍解	地理
4297	明治35年	春の部	淡雪の淡き契りや夢ばかり	淡雪	天文
4298	明治35年	春の部	つばくらに昼鳴る鐘や知恩院	燕	動物
4299	明治35年	春の部	面を吹く風軟かや小弓引	春風	天文
4300	明治35年	春の部	冷めしの宿はものうし朧月	朧月	天文
4301	明治35年	春の部	天さかる鄙路の春や歌枕	春	時候
4302	明治35年	春の部	趣や芥もくたに温む水	水温む	地理
4303	明治35年	春の部	悉く揚がる大凧小凧かな	凧	人事
4304	明治35年	春の部	梅咲いて賢を招かん國の守	梅	植物
4305	明治35年	春の部	瀬の妻病で祭か延びにけり	瀬の祭	時候
4306	明治35年	春の部	瀬魚をまつるも宵の春なれや	瀬の祭	時候
4307	明治35年	春の部	寒食の小皿に紅き芽うど哉	寒食	人事
4308	明治35年	春の部	うどの芽の潔うして春寒し	春寒	時候
4309	明治35年	春の部	涅槃会や鳥啼いてゐる沙羅双樹	涅槃會	人事
4310	明治35年	春の部	ねはん會の済んで鳴出す猫の妻	涅槃會	人事
4311	明治35年	春の部	二日灸麦の畑を眺めやり	二日灸	人事
4312	明治35年	春の部	二日灸肌ぬく事を羞らへり	二日灸	人事
4313	明治35年	春の部	初雷やよき人の夢を驚かす	初雷	天文
4314	明治35年	春の部	畑打や知事が来たとも知らぬげな	畑打ち	人事
4315	明治35年	春の部	水ぬるみ流るゝさまや椿落つ	水温む	地理
4316	明治35年	春の部	陽炎や庭に干したる鬼の面	陽炎	天文
4317	明治35年	春の部	雛の間の桃の屑はく四日哉	雛祭	人事
4318	明治35年	春の部	雛棚の飾も終へてうれしけれ	雛祭	人事
4319	明治35年	春の部	別荘の春まだ浅き便り哉	春淺し	時候
4320	明治35年	春の部	田螺臭き料理なりけり草の宿	田螺	動物
4321	明治35年	春の部	初午や狐のぬすむ小豆めし	初午	人事
4322	明治35年	春の部	手のひらの子雀飛ばす春の風	春風	天文
4323	明治35年	春の部	高砂や此浦舟も春けしき	春	時候
4324	明治35年	春の部	庭前の雪も残らずなりにけり	残雪	地理
4325	明治35年	春の部	子がやせた母もやせたと鳴蛙	蛙	動物
4326	明治35年	春の部	山吹や白木作りの行在所	山吹	植物
4327	明治35年	春の部	出代や叶はぬ戀の三年越	出代	人事
4328	明治35年	春の部	つみ草や羽衣見ゆるあたりまで	摘草	人事
4329	明治35年	春の部	出代の鬨られ兒や桃の花	雑	雑
4330	明治35年	春の部	雁風呂のぬるきもうたゝ哀也	雁風呂	人事
4331	明治35年	春の部	白魚の身は潔し葦なます	雑	雑
4332	明治35年	春の部	小坊主の彼岸顔なり山嵐	彼岸	人事
4333	明治35年	春の部	悉く蛙となりぬ蛙の子	蛙	動物
4334	明治35年	春の部	古つかをさくり出して日は永し	日永	時候
4335	明治35年	春の部	昭君の馬や楊の花ふゝき	柳	植物
4336	明治35年	春の部	階前の花飛ぶ急に秦舞陽	花	植物
4337	明治35年	春の部	年々の桃の流や西施石	桃	植物
4338	明治35年	春の部	春風や徐福が舩の童男女	春風	天文
4339	明治35年	春の部	家に居る東方朔や田螺あへ	田螺和	人事
4340	明治35年	春の部	田螺賣る小鍋に春の日ざし哉	田螺	動物
4341	明治35年	春の部	陽炎や田螺の鍋の煮こぼるゝ	田螺	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4342	明治35年	春の部	田螺賣だまされてゐる都かな	田螺	動物
4343	明治35年	春の部	牡丹切て客驚かす春申君	牡丹	植物
4344	明治35年	春の部	燕青が雁を見上ぐる眼かな	雁	動物
4345	明治35年	春の部	古道を箕子泣き去りぬつく／＼し	つくつく法師	動物
4346	明治35年	春の部	大將は霍嫫姚ぞ霜の声	霜	天文
4347	明治35年	春の部	草餅に張儀が舌の長い事	草餅	人事
4348	明治35年	春の部	春雨や縁に湯氣立つ薬鍋	春雨	天文
4349	明治35年	春の部	虎杖も蘇ものびて暮おそし	雑	雑
4350	明治35年	春の部	春の水あさみに及ぶ溢かな	春の水	地理
4351	明治35年	春の部	田単鶡となりしや否吾不知焉	田単化して鶡となる	時候
4352	明治35年	春の部	立札に人たかりけり花吹雪	花	植物
4353	明治35年	春の部	世の中の俳人どもやつく／＼し	土筆	植物
4354	明治35年	春の部	猫の戀去年の恨もありぬべし	猫の戀	動物
4355	明治35年	春の部	遅き日や壬生の舞台の片明り	遅日	時候
4356	明治35年	春の部	踊見て壬生から戻る日永哉	日永	時候
4357	明治35年	春の部	先生がつくしの歌をよまれけり	土筆	植物
4358	明治35年	春の部	木蓮や庭にほしたる種俵	木蓮	植物
4359	明治35年	春の部	木蓮の画室に散りぬ二三片	木蓮	植物
4360	明治35年	春の部	春雨や狐落ちたる女泣く	春雨	天文
4361	明治35年	春の部	歌塚や柿の木の芽も春にして	春	時候
4362	明治35年	春の部	ほの／＼とあけの蛙も鳴きにけり	蛙	動物
4363	明治35年	春の部	石楠花金剛山の知らぬ鳥	石楠花	植物
4364	明治35年	春の部	鳴神の石にひゝきや石楠花	石楠花	植物
4365	明治35年	春の部	麦鶡田単の妻の知らず顔	麦鶡	動物
4366	明治35年	春の部	到る処菜種の中の麦青し	麦青む	植物
4367	明治35年	春の部	竹の秋嵯峨の名所は荒れにけり	竹の秋	植物
4368	明治35年	春の部	蛇も穴を出つる日和や老の杖	蛇穴を出る	動物
4369	明治35年	春の部	春もうし薬を煮る火消えがちに	春	時候
4370	明治35年	春の部	山霊の不可思議もあり泊狩	泊狩	人事
4371	明治35年	春の部	蜃氣楼いかなる神のこもるらん	蜃氣楼	天文
4372	明治35年	春の部	玉殿に春の御悩や反魂香	春	時候
4373	明治35年	春の部	桃の酒さめて桃ちる日暮哉	桃の酒	人事